

学校法人 青山学院
長期目標・中期計画
2026年度事業計画



Aoyama Gakuin since 1874

目次

はじめに	2
建学の精神／青山学院教育方針／スクール・モットー／AOYAMA VISION	3
I. 青山学院未来構想	
I-1. 青山学院未来構想体系図	4
I-2. 青山学院未来構想策定プロセス	5
I-3. 超長期ビジョン「AOYAMA MIRAI VISION」	6
I-4. 長期目標「AOYAMA VISION 160」（学院目標）	7
II. 設置学校等の長期目標（個別目標）・中期計画・事業計画	
II-1. 大学	9
II-2. 高等部	13
II-3. 中等部	18
II-4. 初等部	20
II-5. 幼稚園	23
II-6. 各種委員会等	25

はじめに

青山学院は、キリスト教信仰にもとづくミッションをいしずえに、「AOYAMA VISION」に掲げた「サーバント・リーダーの育成」をさらに推し進めるため、創立 150 周年を迎えた 2024 年 11 月に「青山学院未来構想」を発表しました。

この構想では、150 周年を起点に、30 年後の 180 周年（2054 年）時点のありたい姿・あるべき姿（未来像）を描いた超長期ヴィジョン「AOYAMA MIRAI VISION」と、そこからバックキャストした最初の 10 年間の長期目標「AOYAMA VISION 160」を定め、これらの目標を達成するための具体的な計画として中期計画・事業計画・実行計画を策定して、2025 年度より取組を開始しています。

2026 年度には、大学に複数の新規事業計画が加わり、教育・研究の発展に資する取組が本格化します。他の設置学校においても、2025 年度に続き、事業計画を核としたサーバント・リーダー育成のための教育を展開していきます。

青山学院は、「すべての人と社会のために未来を拓くサーバント・リーダー」を育てる教育機関として、伝統を継承しながら新たな教育・研究のステージを創造し、理想の未来像へ向かって着実に歩みを進めてまいります。

Bethe *Difference* **Nce**[®]

“世界は一人ひとりの力で変えられる”

建学の精神

青山学院の教育は、永久にキリスト教の信仰に基づいて、行わなければならない。

青山学院教育方針

青山学院の教育は
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、
神の前に真実に生き
真理を謙虚に追求し
愛と奉仕の精神をもって
すべての人と社会とに対する責任を
進んで果たす人間の形成を目的とする。

スクール・モットー

地の塩、世の光
The Salt of the Earth, The Light of the World
(聖書マタイによる福音書 第5章 13～16節より)

AOYAMA VISION

すべての人と社会のために未来を拓く
サーバント・リーダーを育成する総合学園

青山学院が育むサーバント・リーダーは、
自由で自立した存在として、他者に仕えるとともに、互いの価値を見出し、
それを他の価値とつなぐことによって新しい時代を創造します。

I. 青山学院未来構想

I-1. 青山学院未来構想体系図

青山学院は、キリスト教信仰にもとづくミッションをいしずえに、「AOYAMA VISION」に掲げた「サーバント・リーダーの育成」をさらに推し進めるため、超長期ビジョン「AOYAMA MIRAI VISION」と長期目標「AOYAMA VISION 160」を策定しました。これらの具体的な計画として中期計画・事業計画・実行計画を策定し、2025年度より取組を開始しています。



【ミッション】

建学の精神、青山学院教育方針、スクール・モットー、
各設置学校の教育理念・教育目標

【超長期ビジョン「AOYAMA MIRAI VISION」】※1

30年後※2（2054年）の青山学院のありたい姿・あるべき姿（未来像）

【長期目標「AOYAMA VISION 160」】※1 ※3

超長期ビジョンを実現するため、そこからバックキャストし、
最初の10年間（2025～2034年度）で取り組む目標

【中期計画】※1 ※3

長期目標達成のための計画（前・後期各5年）

【事業計画】

中期計画の具体的計画（目安2～3年・最長5年）

【実行計画】

事業計画の具体的計画（単年度）

※1) 超長期ビジョン、長期目標、中期計画の3層を「未来構想」という。

※2) 青山学院創立150周年（2024年）を起点とし、30年後の180周年（2054年）を想定。

※3) 長期目標と中期計画が、私立学校法で定める「事業に関する中期的な計画」に相当。

I-2. 青山学院未来構想策定プロセス

2021年度より青山学院未来構想の策定に着手し、数十回にわたる委員会の開催や教職員からの意見聴取、教職員参加型の講演会・ワークショップの実施を経て、学院一体となって未来構想を完成させました。未来構想の策定プロセス及び未来構想案については、策定体制から独立した評価委員会による事前評価（外部評価）を受け、その結果をふまえた未来構想案を理事会に付議し、承認されています。

- 2021年11月 青山学院未来構想策定体制を発足
- 2022年3月 ・旧ビジョン「AOYAMA VISION」（2014-2024）のもとに策定した中長期計画の中間総括を実施
 - ・超長期ビジョン「AOYAMA MIRAI VISION」案を策定
- 2023年3月 長期目標「AOYAMA VISION 160」案、中期計画（前期5年）案を策定
- 2024年4月 評価委員会*による未来構想の策定プロセス及び未来構想案の事前評価結果を受領
- 2024年5月 超長期ビジョン「AOYAMA MIRAI VISION」、長期目標「AOYAMA VISION 160」、中期計画（前期5年）を理事会承認
- 2024年11月 青山学院創立150周年記念式典にて「青山学院未来構想」を発表

※）正式名称は「学校法人青山学院未来構想評価委員会」。委員は、外部識者や校友等で構成。

I-3. 超長期ビジョン「AOYAMA MIRAI VISION」

青山学院が社会に求められ続ける学校であるために、2つのことを確認しました。ひとつめは今後、社会がどのように変化しても、「青山学院」として存続する限り変えてはいけないもの。ふたつめは、社会変革・社会のニーズを捉えて、教育機関として変えていくもの。これらを背景として、青山学院が30年後（2054年）に目指すありたい姿・あるべき姿「AOYAMA MIRAI VISION」を策定し、教育・研究の3つのGoalと3Goalsを実現するための3つの基盤（Base）を「3Goals & 3Bases」としてまとめました。

3Goals & 3Bases

Goal1

学院一貫教育

価値共有による一貫教育が提供される

- Targets: ① 理念と目指す人物像を一貫する
② 目指す人物像を育成するために必要な要素を共有する
③ 系属校と青山学院の理念と目指す人物像を共有し、
4つの教育要素の共通理解と実践への参画、協働を可能にする

Goal2

教育・研究システム

すべての教育段階で価値創造のための教育が広く提供され、
多くの研究成果が組織的に生み出される

- Targets: ① 多様な層に教育を広げる
② 想像と創造のための教育プログラムを拡充・新設する
③ 地球市民として共生社会に関わる教育を提供する
④ 一生涯学べる教育プログラムを提供する
⑤ 組織的に高度な研究成果を生み出す

Goal3

ソーシャル・エンゲージメント

すべての人と社会のための「学びと研究の拠点」になる

- Targets: ① “いつでも” 開かれた「学びの拠点」を創る
② “誰にでも” 開かれた「学びの拠点」を創る
③ 新しい価値創造に向けた「研究の拠点」を創る

Base1

環境基盤

Base2

組織基盤

Base3

財政基盤

3Goalsを実現するための
「教育研究環境」「組織機構」を整備し、「財政基盤」を確立する

I-4. 長期目標「AOYAMA VISION 160」(学院目標)

超長期ビジョンを実現するため、最初の10年間で取り組む長期目標「AOYAMA VISION 160」を策定しました。青山学院全体で重点的に取り組む目標や学院内のすべての学校に共通する目標を設定した「学院目標」と、これに沿って各設置学校が策定した「個別目標*」で構成されています。

※個別目標は「II. 設置学校等の長期目標(個別目標)・中期計画・事業計画」に掲載しています。

【学院目標】

3 Goals 3 Bases		長期目標(10年) 2025-2034年度 学院目標
学院 一貫 教育	Goal 1	<p>Goal 1-1: 4つの教育要素の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> 青山学院の「キリスト教教育」「国際教育」「先端科学教育」「想像&創造教育」の4要素について、定義が明文化(共通言語化)され、学院内において共通理解となっている。 4要素のうち、設置学校間で共通する方法(人権教育・平和共生教育・STEAM教育等)があるものについては、それが明確となり、設置学校間で連携して取り組まれている。 学院の内外において、これら4要素が青山学院の教育の特長として認知されている。 <p>Goal 1-2: 系属校との共有</p> <ul style="list-style-type: none"> 系属校と青山学院の理念と目指す人物像が共有されている。 系属校と4要素の共通理解と実践への参画、協働を可能にする取組がなされている。
教育 ・ 研究 シ ス テ ム	Goal 2	<p>Goal 2-1: 4つの教育要素の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> 「キリスト教教育」「国際教育」「先端科学教育」「想像&創造教育」の4要素すべてについて、学院共通の定義のもとに、各設置学校において成長段階に応じた教育が提供されている。 「想像&創造教育」については、イマジネーション(想像力)とクリエイティビティ(創造力)を伸ばしイノベーション(改革)を起こす、他にはないユニークな教育プログラムとして学院内外から注目されている。 <p>Goal 2-2: 教育手法と学ぶ人の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> 対面による教育と遠隔(バーチャル含む)による教育の最適なバランスが保たれ、ライフスタイルや学習目的に応じた教育手法が取り入れられている。 その教育手法が広く社会に認知され、属性にとらわれず多様な層から学ぶ人を受け入れている。 <p>Goal 2-3: 創造を促す教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別最適な学習と協働学習の最適なバランスが保たれ、個人の創造のみならず、集団的な創造を促す教育がなされている。 個人を尊重し、豊かな人格の形成に資する評価、社会に受け入れられる評価がなされている。

3 Goals 3 Bases		長期目標（10年）2025-2034年度 学院目標
教育・研究システム	Goal 2	<p>Goal 2-4：地球市民の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外との交流プログラム・協働プログラムが拡充され、正課（教育課程）・正課外（教育課程外）を問わず日常的に海外の学生・スタッフ等と協働する場が提供されている。 ・地球市民として世界の人々や様々なもの（テクノロジーや自然等）と関わり合い、自然界のあらゆる生命体を視野に入れた価値創造のための教育が提供されている。 <p>Goal 2-5：生涯学習の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一生涯において教育と居場所を提供し、働き方の多様化によるキャリア形成の変化にも対応した教育が拡充されている。 <p>Goal 2-6：組織的な知の集積と発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学院内外の研究者との共同研究が促進され、組織的に知の集積と発信を促す取組がなされている。 ・複数分野で青山学院大学の高い研究力が広く社会に認知されている。
エンゲージメント・ジャメルト	Goal 3	<p>Goal 3-1：開かれた学びと新たな価値の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校を取り巻く多様な人々と諸機関と創造的に関わり合い、社会課題の解決や社会に対する新しい価値創造の実績が積まれている。 <p>Goal 3-2：開かれた研究拠点の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な研究者を受け入れ、積極的に研究ネットワークのイニシアティブをとり、研究の創発（「創造と想像」の発信）の場となっている。
環境基盤	Base 1	<ul style="list-style-type: none"> ・青山学院が今後も社会から求められる学校であるための、多様な在校生の受入れや適正な学校規模に関する方向性の検討・決定と周知 ・教育研究環境の整備に資するキャンパス再開発計画
組織基盤	Base 2	<ul style="list-style-type: none"> ・教学-経営間の適切な意思決定・ガバナンス体制の確立 ・各設置学校における教職協働体制の構築を担える職員の人材配置及び育成 ・今後10年間で人事部が取組むサーバント・リーダー輩出に資する人事政策の実行
財政基盤	Base 3	<ul style="list-style-type: none"> ・財政基盤確立のための数値目標の設定及び目標達成のための方策の検討・実行 ・学院財政における10年収支試算表の作成・更新 ・在学生等への経済的支援充実に向けた原資の再構築 ・万代基金拡大を目的とした資金運用の推進

Ⅱ. 設置学校等の長期目標（個別目標）・中期計画・事業計画

Ⅱ-1. 大学

長期目標(学院目標)<10年>	Goal 2-1:4つの教育要素の実践、Goal 2-3:創造を促す教育の実施
長期目標(個別目標)<10年>	知の創造を促す教育プログラムと体系の確立
中期計画 到達目標<前期5年>	教養教育の充実
事業計画1<2025-2027年度>	全学的な教育基盤の確立と共通教育カリキュラムの再構築
目的と概要	全学共通教育の目的・機能を再確認し、それを継続的に推進させるための体制・組織を再構築し、カリキュラム見直しを行う。
2026年度実行計画	青山スタンダード教育のカリキュラム再構築に向けた検討
中期計画 到達目標<前期5年>	学院の特色を活かした学部・研究科における専門教育の展開
事業計画1<2025-2029年度>	大学院教育の見直し
目的と概要	人文社会系大学院の充実化:高度職業人教育を進める専門職大学院や理工学研究科の取組みをさらに進めると同時に、それらの実績や知見を踏まえて人文社会系各研究科を活性化し、進学率の向上を図る。
2026年度実行計画	<ul style="list-style-type: none"> ・AGU Future Eagle Project相当支援制度(学生向け)を進める。 ・人文社会系大学院担当教員への支援制度(教員向け)を進める。 ・理工学研究科特別給付奨学金に準じた運用を人文社会系研究科に適用
事業計画2<2026-2028年度>	次世代型教育・心理専門職養成プログラムの構築
目的と概要	次世代における教育専門職・心理専門職の養成に向けて、必要な環境整備を含め、既存の養成課程を強化したプログラムを構築する。
2026年度実行計画	必要な人員を配置し、実験室・実習室等の整備ならびに教材等の購入・契約を行う。□
中期計画 到達目標<前期5年>	アントレプレナーシップ教育への取り組みの拡充
事業計画1<2025-2029年度>	アントレプレナーシップ人材の育成と青学発スタートアップの支援
目的と概要	近年、イノベーションの創出や新たな価値創造を起こせる人材を輩出するための取組として「アントレプレナーシップ教育」が着目されている。本学では、これらの教育プログラムの開発・実践を通じて、学生のアントレプレナーシップ醸成に取り組む。また、教員、在学生、卒業生のスタートアップを支援する体制を構築し、青学発ベンチャーの創出を目指す。
2026年度実行計画	<ul style="list-style-type: none"> ・アントレプレナーシップ教育プログラム(アントレプレナーシップコース)の導入・実践 ・起業支援体制の検討、準備 ・起業支援センターの設立
長期目標(学院目標)<10年>	Goal 2-4:地球市民の育成
長期目標(個別目標)<10年>	地球規模での共感と社会貢献を実現する人材教育の確立
中期計画 到達目標<前期5年>	地球規模で連携した教育の実践
事業計画1<2025-2027年度>	留学生受け入れ体制の整備
目的と概要	外国人留学生数(私費・交換)の増加及びより優秀な留学生の獲得を目指すため、入学後の事務支援体制や留学生対象プログラムの充実化など、受入体制の整備を行う。また、相模原キャンパスの国際化に向けた取り組みも行う。
2026年度実行計画	<ul style="list-style-type: none"> ・両キャンパスにおいて留学生数増加を実現するための事務体制構築に向けた取り組みを試行する。 ・2025年度に拡充した両キャンパスの留学生対象イベントを継続し、学生アンケート等を基にブラッシュアップする。

事業計画2〈2025-2029年度〉	留学支援のための体制整備、支援方針及び中長期目標の策定
目的と概要	国際社会の多様な価値観のなかで国際共感力を発揮し、異文化社会のなかでも協働して社会貢献することのできるグローバル・サーバントリーダーを育成するため、本学学生の短期及び長期海外留学プログラムを拡充し、留学しやすい環境整備(留学に必要なスキルの獲得支援及び不安要素解消)のための取組みを行う。
2026年度実行計画	・本学学生の留学プログラムを拡充するための取組みを試行する。 ・本学学生が留学しやすい環境を整備するための取組みを試行する。
事業計画3〈2025-2029年度〉	ダブルディグリー(dual degree)プログラムのパートナー校の拡充
目的と概要	青山学院が目指す人物像「サーバント・リーダー」、すなわち自分の使命を見出して地球規模で人と社会に仕え、その生き方が導きとなる人材を育成するために、他国の人と共に学び、違いを受け入れる力を養う機会でもあるダブルディグリープログラムを拡充させていく。
2026年度実行計画	イギリス(エセックス大学)以外の国でのパートナー校を選定し、交渉を進める
事業計画4〈2025-2029年度〉	学位取得型留学(ダブルディグリー等) 給付奨学金の設置と拡充
目的と概要	学位取得型留学とは、学位取得に関する協定を交わした大学へ留学することにより、本学と留学先大学の2つの学位を取得する留学プログラムを指す。本制度の全学展開及び本制度を目的とした協定校の増加を目指し、本学の国際化を図る。そのために、学位取得型留学を希望する学生を対象とした奨学金を新設することで、学生の負担軽減、留学参加を促す。
2026年度実行計画	・学位取得型留学導入済みの学部所属学生を対象に奨学金制度の周知・利用促進 ・学位取得型留学の拡大(希望学部・研究科への制度導入支援、協定大学の開拓等)
事業計画5〈2025-2029年度〉	英語のみで卒業できるプログラムの検討
目的と概要	本学に英語学位プログラム(英語のみで学位を取得できるプログラム)の開設を検討する。同プログラムの導入により、本学が外国人留学生の受入強化をできると判断した場合にはプログラムの開設に着手する。また、しないと判断した場合には、代替プログラムの開設に着手する。
2026年度実行計画	・英語学位プログラムの検討 ・英語学位プログラム運営体制の構築
事業計画6〈2026-2029年度〉	英語のみで卒業できるプログラム(大学院)の検討・準備
目的と概要	国際政治経済学研究科に英語学位プログラム(英語のみで学位を取得できるプログラム)の開設を検討する。同プログラムの導入により、本研究科が外国人留学生の受入れ強化をできると判断した場合にはプログラムの開設に着手する。できないと判断した場合には、代替プログラムの開設に着手する。
2026年度実行計画	・英語学位プログラムの検討 ・英語学位プログラム運営体制の構築
事業計画7〈2026-2029年度〉	米国の国際認証機関AACSBからの認証新規獲得
目的と概要	地球規模の視野に立った教育を国際マネジメント研究科において実践する為、欧州の認証機関であるEFMDに加えて米国の認証機関であるAACSBからビジネス教育の質保証を新規に獲得する。
2026年度実行計画	・initial self-evaluation reportを提出し審査を受ける ・メンター訪問受け入れ ・AACSB年次総会やワークショップへの参加

事業計画8<2026-2029年度>	理工学研究科とジャンモネ大学 Computer Science International Master Program とのダブルディグリー(DD)推進プロジェクトの実施
目的と概要	「サーバント・リーダー」の育成を目指し、地球規模の視野を持ち、人と社会に仕える力を備えた高度専門人材の育成を推進する。その実現のために、ジャンモネ大学の Computer Science International Master (CPS2: Cyber-Physical Social System trackと、MLDM: Machine Learning and Data Mining track) とのダブルディグリープログラムを展開し、研究、教育カリキュラム、そして、人材交流などの連携を強化する。本事業では、先端情報科学、および人工知能技術に関する最先端の知見に加え、インターカルチュラル・コンピテンスとグローバル・エンゲージメントを備えた、トランスナショナルな人材育成を目指す。概要は、フランス・ジャンモネ大学との共同教育プログラムを通じて、所定の履修課程を修了した学生に対し、両大学の学位を授与するダブルディグリープログラムを推進する。本プログラムをベースに、先端情報科学および人工知能技術の分野における人材育成、教育カリキュラムの設計、ならびに研究活動の連携を通じて、教育・研究・人の相互交流と知識基盤の共有を図る。
2026年度実行計画	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて派遣・受け入れするための段取りを改めて整理し「標準手順書」を作成する。 ・初めての派遣には、派遣者の指導教員に加えて、今後の交流を拡充させるためもう1名教員を短期派遣し(出張授業、共同研究テーマのすり合わせなど)、両組織の交流を深める。 ・共同研究会の実施
長期目標(学院目標)<10年>	Goal 2-5: 生涯学習の拡充
長期目標(個別目標)<10年>	一生涯学び続ける人間教育の確立とそれを受け入れるプログラムの開発
中期計画 到達目標<前期5年>	生涯教育プログラムの拡大
事業計画1<2025-2029年度>	多様な受講者が参加できる生涯教育プログラムの整備
目的と概要	本学では社会人向け教育プログラムとして生涯学習プログラム(公開講座・青山アカデミア・履修証明プログラム)を展開している。社会連携・社会貢献として、それぞれ趣旨・形態の異なる多様なプログラムをさらに充実させ、本学卒業生を含む多くの社会人が気軽に学び直せるような機会の提供をする。また、急激な少子化を踏まえた大学の将来を見据えた重要なプログラムとして位置付け、継続した体系的なプログラムの構築を目指す。
2026年度実行計画	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習プログラムの広報の強化 ・生涯学習プログラムの外部会場での実施、学内の専用施設の設置(オンライン配信機能完備) ・アカデミアにおける体系的なプログラムの検討
長期目標(学院目標)<10年>	Goal 2-6: 組織的な知の集積と発信
長期目標(個別目標)<10年>	大学を超えた地球規模での研究コミュニティの確立と連携するプラットフォームの構築
中期計画 到達目標<前期5年>	地球規模での大学連携と共同研究の推進と主導
事業計画1<2026-2029年度>	海外との共同研究を促進する研究プラットフォームの設置
目的と概要	国際共同研究のためのネットワーク形成の支援をする。全学部横断的な研究組織(広範な領域の研究者が関われる研究所)による、海外研究者との交流が促進される国際研究ネットワークの形成
2026年度実行計画	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年度中に設計した国際共同研究のためのスキームを用いて、組織間共同研究、個人間共同研究の支援を開始する。 ・パイロット事業を開始し、「国際共同研究拠点」形成のためのロードマップを策定する。

長期目標(学院目標)<10年>	Goal 2-6:組織的な知の集積と発信、Goal 3-2:開かれた研究拠点の創出
長期目標(個別目標)<10年>	長期的価値に基づく独自研究のサポート体制の確立
中期計画 到達目標<前期5年>	歴史的、文化的価値の追求
事業計画1<2026-2029年度>	研究ポータルサイトの構築・成果公表体制の強化
目的と概要	研究業績を社会と結びつけ、研究ネットワークを地球規模で構築するためのウェブサイト構築するとともに研究成果の海外からのアクセスを促進する体制を強化する。
2026年度実行計画	・研究成果公表・研究ポータルサイト・業績管理システムの要件定義を行い、業者選定を行う。 ・論文投稿状況分析を行い、青山学院大学の研究における強みを把握する。
中期計画 到達目標<前期5年>	先導的・共創的人材の育成
事業計画1<2025-2029年度>	海外大学からのインターン生受入れの支援
目的と概要	理工学部の国際化や海外の大学から本学大学院に入学する学生の獲得を目指し、インターン生を受け入れることを目的とする。インターン生は理工学部の研究室に2ヶ月程度滞在し、実践を通じて学ぶとともに、本学の学生とも交流する。また、インターン生の受け入れ元の大学を他の国の大学にも拡大していく。
2026年度実行計画	・タイと米国の3校よりインターン生を受け入れる取り組みを実施する。 ・受け入れインターン生を18名とする。
事業計画2<2026-2029年度>	国際的なフィールドで活躍できるサーバント・リーダー育成のための海外研修プログラム新規開発と教員育成
目的と概要	地球規模の視野に立った教育プログラム開発と実行を目的とし、短期海外研修セミナーの新規開発と実行を担当する教員の育成を実施する。また、参加学生の渡航費を一部負担することで安定した履修人数を確保する。
2026年度実行計画	・新規海外研修セミナー立ち上げ準備の為の現地訪問(フィンランド、インドネシア、タイを予定) ・既存海外研修セミナー相手校と新規取り組みの打合せ(米国とマレーシアを予定) ・海外研修セミナー未経験教員の海外派遣(海外研修セミナーへの帯同と新規立ち上げへの参画) ・海外研修セミナー参加学生の渡航費を一部補助
長期目標(学院目標)<10年>	Goal 3-1:開かれた学びと新たな価値の創造
長期目標(個別目標)<10年>	社会課題の解決に向けた地域と一体化した開かれたコミュニティの構築
中期計画 到達目標<前期5年>	地域社会の発展に寄与する知の拠点の構築
事業計画1<2026-2029年度>	スポーツ価値創造プロジェクトの推進
目的と概要	青学スポーツのブランディング・情報発信を強化し、特定のスポーツに限定されない広範な認知を拡大する。また、本学スポーツ分野のプロモーションを活性化し、青学スポーツのファン層の拡大と支援者の増加を実現することで、体育会各部の活動支援につなげる。
2026年度実行計画	・情報発信媒体の構築 ・ブランドコンセプトの策定及び同コンセプトに基づく施策(プロモーション活動)の検討

<補足事項>

「Ⅱ-1. 大学」には、大学を構成する各部署・附置機関、大学院、専門職大学院が行う事業計画を掲載しています。

II-2. 高等部

長期目標(学院目標)<10年>	Goal 2-1:4つの教育要素の実践
長期目標(個別目標)<10年>	キリスト教教育の多角化
中期計画 到達目標<前期5年>	<ul style="list-style-type: none"> ・聖書の授業を中心に、教育活動全体により知識や理解が深まること。 ・他教科においても聖書の記述や歴史、価値観と関連した単元では、それらを意識した構成となっている。 ・実際に訪問する教会や病院施設との連携の機会について話し合いが行われている。
事業計画1<2025-2029年度>	様々な教科における聖書の記述や歴史、価値観と関連した単元でのそれらを意識した展開の検討
目的と概要	<p>『地の塩・世の光』『サーバント・リーダー』の育成をベースとし、礼拝、聖書知識、奉仕や助け合う体験、大切なことへの思考など学校全体の活動を通して、キリスト教信仰、また神や人生について深く考え、人を愛し人に奉仕する人を育む教育を、より有機的に統合された形で継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他教科との有機的なつながり:国語・数学・理科・歴史・英語・芸術など様々な教科の中で、キリスト教徒に関連のあるトピックや史実などを通して、聖書の神を意識できるような授業が展開されている。
2026年度実行計画	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で、単元を見直し、聖書やキリスト教に関連するトピックに関してできるところから始める。 ・グローバルウィークや全校の行事においても、その意義についてキリスト教のベースを意識する。
事業計画2<2025-2028年度>	教会や病院施設との連携
目的と概要	<p>『地の塩・世の光』『サーバント・リーダー』の育成をベースとし、礼拝、聖書知識、奉仕や助け合う体験、大切なことへの思考など学校全体の活動を通して、キリスト教信仰、また神や人生について深く考え、人を愛し人に奉仕する人を育む教育を、より有機的に統合された形で継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別礼拝・特別プログラム(キャンプ)の活性化・国際化を展開している。例:メソジスト関連学校(海外も含む)との交流。 ・教会との連携:教会の礼拝でキリスト教関連クラブの奉仕。
2026年度実行計画	<ul style="list-style-type: none"> ・教会を通じて、講師の派遣、ミッションスクール(海外含む例:メソジスト関連)との交流の可能性の検討する。 ・2025年度の検討を踏まえ、実施可能な交流や奉仕について、具体的な話を進める。
長期目標(学院目標)<10年>	Goal 2-1:4つの教育要素の実践、Goal 2-4:地球市民の育成、Goal 3-1:開かれた学びと新たな価値の創造
長期目標(個別目標)<10年>	学内(国内)における国際交流プログラムの充実
中期計画 到達目標<前期5年>	日本にいながらの新たな国際交流企画(オンライン、国内外国人)を実践している。
事業計画1<2025-2028年度>	海外からの留学生の増加
目的と概要	<p>多様な価値観の共有を基盤として、世界の様々な文化圏の人々と交流し、進んで人と社会に仕え、世界平和に貢献し、その生き方が世の光となる「サーバント・リーダー」の育成のため、学内を中心とした国内における国際交流の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外からの留学生(聴講生)の人数を増やす。
2026年度実行計画	長期留学生を、6名程度まで増やす。

事業計画2<2025-2029年度>	オンライン等を活用した国内における新たな国際交流企画の実践
目的と概要	多様な価値観の共有を基盤として、世界の様々な文化圏の人々と交流し、進んで人と社会に仕え、世界平和に貢献し、その生き方が世の光となる「サーバント・リーダー」の育成のため、学内を中心とした国内における国際交流の充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ネイティブ専任待遇英語教員の充実完了 ・オンライン交流の充実:授業内外でオンラインを活用して、海外の高校生と交流するプログラムを行う。 <ul style="list-style-type: none"> * 韓国・フィリピン・オーストラリアなどの学校とのオンライン交流 * 喋れない言語でも翻訳機を使って、世界平和について語る。COIL (Collaborative Online International Learning): オンラインで日本と海外の生徒たちをつなぎ、協働しながら何かしらのプロジェクトに取り組んで学ぶ手法、の取り組み ・オンライン交流教育:英語圏だけでなく海外の学校との交流(ビデオ通話だけでなくメタバース空間でつながる) ・国内の外国人との交流を行っている(インターナショナルスクール、避難民、実習生)
2026年度実行計画	<ul style="list-style-type: none"> ・国内にいる外国人(インターナショナルスクール・避難民・実習生)の方たちとの交流について可能性を検討する。 ・前年度の進捗により、検討を継続、もしくは可能な学校とは、具体的な交流方法の検討に入る。
長期目標(学院目標)<10年>	Goal 2-1:4つの教育要素の実践
長期目標(個別目標)<10年>	先端技術と情報リテラシー教育の推進
中期計画 到達目標<前期5年>	HR教室を中心に高等部施設内の先端技術教育(ICT教育)のためのインフラの最適化と、情報リテラシー教育、ICT機器利活用が校内の教育活動の多くの場面で行われている。
事業計画1<2025-2028年度>	先端技術に合った校内のインフラ整備及び情報リテラシーの教育体制の検討
目的と概要	より進化していく先端技術と生きていく中で、正しく情報を理解し、かつ正しく利用できる力の育成を継続するため、校内インフラや情報リテラシー教育体制を整備する。
2026年度実行計画	<ul style="list-style-type: none"> ・バーチャル空間を体験できるよう、情報教室のリフォームを行う(例えば4方向スクリーンを設置する) ・ICT機器の更改については、Chromebookにとらわれず、時代にふさわしい機器を選定できるよう研究する
長期目標(学院目標)<10年>	Goal 2-1:4つの教育要素の実践、Goal 2-3:創造を促す教育の実施、Goal 3-1:開かれた学びと新たな価値の創造
長期目標(個別目標)<10年>	平和・共生プログラムの充実・発展
中期計画 到達目標<前期5年>	既存のプログラム(修学旅行、ジョブtavi、バイブルキャンプ、宮古訪問プログラム、スノーキャンプ等)の検証がされ、より充実したプログラムとなっており、新しいプログラムが1つ以上実践されており、さらなる検討が進んでいる。
事業計画1<2025-2029年度>	既存のプログラムの意義や内容についての検証
目的と概要	様々な地域や立場の人々に会いに行き、文化や考えを共有して、「平和な社会、他者と共生する社会」を実現するために、具体的な課題を見つけ、解決しようとする態度を養い、また一市民として生涯学び続けるための「学び方の技術」を獲得する一助となることを目指す。 生徒一人ひとりが、世界の人々と共感する想像力をもって、それぞれに創造性を発揮し、集団の創造力を引き出す力を備えて、世界をより良く変えるマインドを持てるプログラムの充実と継続的に連携のとれる訪問先の開拓や構築を行う。
2026年度実行計画	高等部の既存プログラムの意義や時期、また期間等を精査し、必要に応じて、統合したり、新しいプログラムの立ち上げの検討を継続する。

事業計画2<2025-2026年度>	外部ボランティア団体や共生プログラムを実施している団体との提携の検討
目的と概要	様々な地域や立場の人々に会いに行き、文化や考えを共有して、「平和な社会、他者と共生する社会」を実現するために、具体的な課題を見つけ、解決しようとする態度を養い、また一市民として生涯学び続けるための「学び方の技術」を獲得する一助となることを目指す。 生徒一人ひとりが、世界の人々と共感する想像力をもって、それぞれに創造性を発揮し、集団の創造力を引き出す力を備えて、世界をより良く変えるマインドを持てるプログラムの充実と継続的に連携のとれる訪問先の開拓や構築を行う。 ・生徒が自分の関心のあるボランティアに参加できるように、外部のボランティア団体との提携。例: Hands on ・海外の人と共に作業しながら、共生について考えるようなプログラムの開発。例: アジア学院
2026年度実行計画	外部ボランティア団体や共生プログラムを実施している団体と協力して1つ以上のプログラムが実践され、今後継続的に行えるよう課題の改善に向けた検討を行う。
長期目標(学院目標)<10年>	Goal 2-2: 教育手法と学ぶ人の拡充
長期目標(個別目標)<10年>	リアルな体験や学びとオンラインやバーチャルな体験や学びの融合
中期計画 到達目標<前期5年>	授業や行事などの対面による教育活動の意義が検証されている。新しいVRやメタバースの利用方法やその意義や課題が検証されて、活動が始まっている。
事業計画1<2025-2027年度>	追分寮やアジア学院などを活用したリアルな自然体験をしながらの探究学習プログラムの模索
目的と概要	より進化していく先端技術と生きていく中で、自然の中で必要な体験や、対面での他者とのコミュニケーションができる活動の充実と、新たな先端技術を効果的に利活用する教育活動の融合を行う。 ・宿泊行事や授業においてPBLなどの手法を使いながら、協働の学びの充実 ・環境問題や資源問題について追分寮で宿泊しながらの研究プログラムの実施
2026年度実行計画	グリーンキャンプ、サマーキャンプ、イングリッシュキャンプ、ホホワイトキャンプなどの行事において体験できるリアルな体験とバーチャルな体験を実際に比較しながら、どのように有機的に統合できるか、より豊かな学びとなるかを検証し、実際に融合したプログラムの準備をする。
長期目標(学院目標)<10年>	Goal 2-3: 創造を促す教育の実施
長期目標(個別目標)<10年>	教員の授業力強化による探究的な学びの深化と個別最適な学びの促進
中期計画 到達目標<前期5年>	・スクールポリシー(グラデュエーションポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー)が確立している ・教員の教育技術研修が継続的に行われている ・生徒一人ひとりに合った課題のためのAIソフトなどの研究が始まっている
事業計画1<2025-2027年度>	スクールポリシーの確立と実践
目的と概要	生徒が授業を中心とした教育活動を通し、思考力、判断力、表現力を身につけられることを目指した、教員一人ひとりの授業力強化による探究的な学びの深化と個別最適な学びの促進に取り組む。 ・スクールポリシー(グラデュエーションポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー)を確立し、教員一人ひとりが学校の方向性を理解する。
2026年度実行計画	アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、グラデュエーションポリシーを内外に周知し、高等部の教育理念が実践されていくよう検証する。

事業計画2〈2025-2029年度〉	授業改善のための研修の実施
目的と概要	生徒が授業を中心とした教育活動を通し、思考力、判断力、表現力を身につけられることを目指した、教員一人ひとりの授業力強化による探究的な学びの深化と個別最適な学びの促進に取り組む。 ・継続的な授業力強化のための研修(ファシリテーションなど)
2026年度実行計画	ファシリテーション研修の継続
事業計画3〈2025-2027年度〉	生徒一人ひとりに合った評価や課題のためのAIソフトなどの研究と導入
目的と概要	生徒が授業を中心とした教育活動を通し、思考力、判断力、表現力を身につけられることを目指した、教員一人ひとりの授業力強化による探究的な学びの深化と個別最適な学びの促進に取り組む。 ・評価基準の改善 ・生徒一人ひとりに合ったAIの有効活用
2026年度実行計画	高等部で採用できそうな高校生向けのAIソフトの存在は確認できず、個別最適化について26年度はAIソフトの導入よりも、現場での対応を検討する
長期目標(学院目標)〈10年〉	Goal 2-4: 地球市民の育成
長期目標(個別目標)〈10年〉	海外プログラム・留学プログラムの充実と多様化
中期計画 到達目標〈前期5年〉	既存のプログラム(短期交換留学、カナダホームステイプログラム、フィリピン訪問プログラム、東ティモールスタディツアー等)の検証がされ、より充実したプログラムとなっており、新しいプログラムが実施に近い形で準備されている。
事業計画1〈2025-2028年度〉	短期交換留学プログラムの検証と改善
目的と概要	多様な価値観の共有を基盤として、世界の様々な文化圏の人々と交流し、進んで人と社会に仕え、世界平和に貢献し、その生き方が世の光となる「サーバント・リーダー」の育成のため、実際に海外に赴き、現地の人と出会い、空気を吸い、文化に触れ、地球規模の課題を考えられるプログラムの充実を図る。 ・短期交換留学プログラムの検証を行い、より意義のあるプログラムに発展させる ・留学制度の多様化: 生徒のニーズを考慮しつつ、ターム留学など参加しやすい留学制度を構築する
2026年度実行計画	2025年度に出された課題について、具体的にその対処の案を検討し、必要に応じてプログラム全体の変更も視野に入れて具体的な改善案を検討する。(場合によっては、相手校だけでなく国や、交換留学の制度や時期についても検討する)
事業計画2〈2025-2026年度〉	カナダホームステイプログラム、フィリピン訪問プログラム、東ティモールスタディツアーの検証と改善
目的と概要	多様な価値観の共有を基盤として、世界の様々な文化圏の人々と交流し、進んで人と社会に仕え、世界平和に貢献し、その生き方が世の光となる「サーバント・リーダー」の育成のため、実際に海外に赴き、現地の人と出会い、空気を吸い、文化に触れ、地球規模の課題を考えられるプログラムの充実を図る。 ・既存のカナダホームステイプログラム、フィリピン訪問プログラム、東ティモールスタディツアーの検証を行い、より意義のあるプログラムに発展させる。
2026年度実行計画	洗い出された課題の解決策について、具体的に対応を決め、場合によっては参加費の増減、訪問地の若干の変更等を、運営会社と協力しながら実施する。

事業計画3<2025-2026年度>	サーバント・リーダーシップ研修プログラムの準備・実施
目的と概要	<p>多様な価値観の共有を基盤として、世界の様々な文化圏の人々と交流し、進んで人と社会に仕え、世界平和に貢献し、その生き方が世の光となる「サーバント・リーダー」の育成のため、実際に海外に赴き、現地の人と出会い、空気を吸い、文化に触れ、地球規模の課題を考えられるプログラムの充実を図る。</p> <p>・既存の国際交流プログラムに加え、英語を得意とする生徒向けのプログラムとして、アメリカの大学やボランティア施設での奉仕活動などを通して、サーバント・リーダーについて考え、学ぶリーダーシップ研修プログラムを展開している。例：リーダーシッププログラム・アメリカの大学で、英語でリーダーシップを学ぶ。(多様な価値観の受容、進んで人と社会に仕え、その生き方が世の光となるサーバント・リーダーの育成)</p>
2026年度実行計画	2025年度に成立しなかったこのプログラムの内容と生徒のニーズを改めて精査し、実際にプログラムに参加しその内容を検証する。

II-3. 中等部

長期目標(学院目標)<10年>	Goal 2-1:4つの教育要素の実践
長期目標(個別目標)<10年>	教科センター型校舎の活用
中期計画 到達目標<前期5年>	教科センター型校舎を活用した授業展開、メディアスペース(MS)の展示の充実・工夫、課題の克服
事業計画1<2025-2029年度>	教科センター型校舎を生かした学習の探求
目的と概要	教室やMSの展示を通して、教科の魅力を発信できる環境をつくる。また、生徒たちはお互いの作品に触れ、良い面を吸収し合うことができるよう、今後、学習環境のさらなる充実を目指す。
2026年度実行計画	<ul style="list-style-type: none"> ・教科センター型校舎の課題を検討する。 ・メディアスペースの展示物・掲示物を充実させる。 ・学年ラウンジの活用を共有する。
長期目標(個別目標)<10年>	建学の精神の体現
中期計画 到達目標<前期5年>	<ul style="list-style-type: none"> ・神の前では生徒も教師も共に御言葉に導かれる礼拝と授業 ・高齢者など他者との交流を通して自己肯定感を高める機会提供 ・宿泊行事等を通して、実際に戦跡を訪ね、実際の体験談を聞き(最後の機会)、平和の大切さを考える機会をもつ。
事業計画1<2025-2029年度>	建学の精神であるキリスト教に基づく教育の実践
目的と概要	「青山学院の教育は、永久にキリスト教の信仰に基づいて、行わなければならない。」との建学の精神に基づき、生けるキリストに導かれ続ける教育を目指す。
2026年度実行計画	<ul style="list-style-type: none"> ・特別礼拝の充実を図る。 ・建学の精神を意識した授業、学校行事を実施する。 ・コンテンツラー礼拝の導入を検討する。 ・青学講堂での行事を中等部礼拝堂でも行えるようにするための検討を開始する。
長期目標(学院目標)<10年>	Goal 2-2:教育手法と学ぶ人の拡充
長期目標(個別目標)<10年>	ICT環境の整備
中期計画 到達目標<前期5年>	1人1台パソコンを持つようになり、生徒全員が快適な環境で使えるよう、アクセスポイントの増設など環境を整備する
事業計画1<2025-2029年度>	先端教育の実現のための、ICT環境の充実
目的と概要	タブレットを文具のように扱うことができるように、快適なICT環境を整える。これにより個別最適化された授業の実現ができること期待される。他の設置学校と連携し、一貫した方針の下でデジタルツールを使いこなせる環境整備を行う。
2026年度実行計画	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクター更新 ・中等部教育用LANのサーバーリプレイス ・教員向けICT研修会の実施 ・ICTステーション(初中高)の開室および技術者の配置の継続
長期目標(学院目標)<10年>	Goal 2-3:創造を促す教育の実施
長期目標(個別目標)<10年>	デジタルポートフォリオの作成
中期計画 到達目標<前期5年>	中等部デジタル・ポートフォリオの作成
事業計画1<2025-2029年度>	デジタル・ポートフォリオの運用
目的と概要	生徒自らが学内外の活動を記録し、振り返りの機会を持ち、次へのステップを考えるきっかけとする。
2026年度実行計画	<ul style="list-style-type: none"> ・中等部内でデジタル・ポートフォリオに記録する追加項目の検討 ・新1年生の記録開始

長期目標(個別目標)<10年>	外部プログラムへの参加
中期計画 到達目標<前期5年>	生徒個々の興味・関心・能力に応じ、外部のプログラムやコンテスト、検定試験などを紹介し、自らの能力を磨き、目標を持って挑戦する機会をサポートする。
事業計画1<2025-2029年度>	外部のプログラム、各種コンテスト、検定試験の紹介とサポート
目的と概要	中等部生が参加できる国内外のプログラム、コンテスト、検定試験などの参加を積極的に促す。同じ敷地にある一貫校のメリットを生かし、高等部、大学等のイベントの参加の可能性を探る。
2026年度実行計画	・学内外のプログラムやコンテスト、検定試験などを紹介し参加を促す。 ・参加した生徒の成果を発表する場を検討する。
長期目標(学院目標)<10年>	Goal 2-4: 地球市民の育成
長期目標(個別目標)<10年>	海外との交流プログラムの充実・国際的視野の獲得
中期計画 到達目標<前期5年>	中等部の国際交流プログラムをより充実・拡大し、より多くの生徒たちに海外でのプログラムに参加してもらい、異文化体験を味わう。同時に、教員の負担の少ないサステナブルかつグローバルな交流プログラムを構築する。
事業計画1<2025-2029年度>	国際交流プログラムの充実
目的と概要	生徒が国際的な視野を広め、世界の様々な文化・歴史・考え方などを知ることによって、将来のことを考えるきっかけとなる国際交流プログラムの充実を図る。 新規交流事業を軌道に乗せ、中等部在学中により多くの生徒たちに異文化体験を味わい、国際感覚を身に付けた生徒を育てる。
2026年度実行計画	・オーストラリア・ホームステイ・プログラム(2年目)の課題の取組 ・イギリス・サマーキャンププログラム3年目の課題・修正への取組 ・交流校生徒の受入体制の検討 ・国際教育プログラムの国内(校内含)での実施検討
長期目標(個別目標)<10年>	国際交流におけるコミュニケーションツールとしてのICT機器のさらなる活用
中期計画 到達目標<前期5年>	国際交流におけるコミュニケーション・ツールとして、これまでの対面に加え、ICT機器を積極的に利用し、さらなる交流を推し進める。語学の学習において、VRやメタバースなどを実験的に導入し、仮想空間の中で国際交流を行い、その成果について検証する。一方、チャットルームを利用し、留学生たちと身近に接する機会も増えている。
事業計画1<2025-2029年度>	国際交流におけるICT機器の活用
目的と概要	「国際的な視野」で得たつながりを生かし、ICTツールを活用し他国の生徒と交流・議論する場を作る。
2026年度実行計画	・オンライン交流会の実施 ・オンライン交流の授業内での実施の検討 ・オンライン英会話の実施
長期目標(学院目標)<10年>	Goal 3-1: 開かれた学びと新たな価値の創造
長期目標(個別目標)<10年>	中等部を取り巻く社会との連携
中期計画 到達目標<前期5年>	渋谷・表参道という地の利を生かし、中等部周辺の施設、OB・OG、企業と連携をはかり、生徒たちが様々な分野で活躍する方がたの話を聞いたり、体験したりするプログラムを行う。
事業計画1<2025-2029年度>	社会連携プログラムの実施
目的と概要	中等部周辺の施設、OB・OG、企業と連携し、生徒たちに実社会について学ぶ機会を提供し、キャリア教育を充実させる。
2026年度実行計画	・新規講演会の実施の検討 ・キャリア教育の充実 ・周辺企業・施設の訪問 ・施設の貸出 ・相模原キャンパス見学ツアーの実施

II-4. 初等部

長期目標(学院目標)<10年>	Goal 2-1:4つの教育要素の実践
長期目標(個別目標)<10年>	直接体験による「本物にふれる教育」の継続
中期計画 到達目標<前期5年>	直接体験による「本物にふれる教育」の継続
事業計画1<2025-2029年度>	各学年宿泊行事の継続および宿泊行事における「生きる力」の継続的な測定
目的と概要	青山学院が目指す人物像「サーバント・リーダー」を育成するための4つの教育要素のうち、「キリスト教教育」「想像&創造教育」について、キャンパスを出て、自然体験および現地の文化や人々との交流を通して学ぶ機会を作ることを恒久的に継続する。また、その中で児童の「生きる力」の変容を継続的に測定し、宿泊行事の内容の練磨を行う材料とする。宿泊行事を通して、アナログとデジタルの両方を経験させ、両者の長所と短所を理解し、それぞれの長所を生かせる人材を育てる。
2026年度実行計画	各学年の宿泊行事がすべて継続されている。また、宿泊施設の閉鎖等の事態に備え、代替地視察を検討・実施している。
事業計画2<2025-2029年度>	特別給食「ランチョン」および手作りによる給食提供を通じた食育の継続
目的と概要	青山学院が目指す人物像「サーバント・リーダー」を育成するための4つの教育要素のうち、「キリスト教教育」「想像&創造教育」について、季節感を盛り込んだ特別な給食である「ランチョン」および手作りによる給食を通して、食事から学ぶ機会を作ることを恒久的に継続する。
2026年度実行計画	特別給食「ランチョン」の継続と、手作りによる給食提供およびそれを用いた食育が実施されている。
事業計画3<2025-2029年度>	図工科「陶芸」等の手を使い時間をかけて作る制作の継続
目的と概要	図工科「陶芸」等の手を使い時間をかけて作る制作を通して、想像力と創造性を育むために、「本物にふれる教育」を継続し、児童が直接体験して、そこから感じ、考え、行動する機会を継続して設けていく。
2026年度実行計画	図工科「陶芸」等の手を使い時間をかけて作る制作の継続
事業計画4<2025-2029年度>	時代を越えた良書に触れる機会を作るための『本は友だち』を用いた読書指導
目的と概要	児童が神様からの恵みを実体験し、国際社会の中で本当の価値を考え、先端科学教育の意義を考えられるようになり、想像力と創造性を育むために、「本物にふれる教育」を継続する。児童が直接体験して、そこから感じ、考え、行動する機会を継続して設けていくために、時代を越えた良書に触れる機会として『本は友だち』を用いた読書指導等を継続して行う。
2026年度実行計画	時代を越えた良書に触れる機会を作るために『本は友だち』を用いた読書指導の実施
事業計画5<2025-2029年度>	初等部構内での防災かまど及び防災トイレの設置とその体験学習の実施
目的と概要	児童が直接体験して、そこから感じ、考え、行動する機会を継続して設けていき、「生きる力」を育むために、そして命を守る学習のために、また災害時のために初等部構内に防災かまど及び防災トイレの設置とその体験学習を実施する。
2026年度実行計画	防災かまどの策定及び防災トイレを用いた体験学習の策定、実施

長期目標(学院目標)<10年>	Goal 2-2:教育手法と学ぶ人の拡充
長期目標(個別目標)<10年>	直接体験と間接体験のバランスが取れた教育の実践
中期計画 到達目標<前期5年>	直接体験と間接体験のバランスが取れた教育の継続
事業計画1<2025-2029年度>	電子黒板、タブレット端末の活用による協働的な学習の推進及びAIDリル等による個別最適な学習の導入と検討
目的と概要	アナログとデジタルの両方を経験させ、両者の長所と短所を理解し、それぞれの長所を生かせる人材を育てる。そのために、中学年以降(3~6年生)では、低学年でのアナログでの実体験をもとに、デジタルの良さも取り入れ、両者を使い分けられる人材を育てる。また、児童の賜物を磨くために、協働学習の礎となる基礎的な学力を、AIDリル等を活用して身につけさせ、高いレベルでの協働的な学習を行っていく。
2026年度実行計画	・電子黒板、タブレット端末の活用による協働的な学習の実施 ・AIDリル等による個別最適な学習の実施
事業計画2<2025-2029年度>	宿泊行事訪問先とのオンラインでの交流の検討
目的と概要	対面でのやり取りが良いもの、ICTを生かして遠隔地との交わりで知見を広げることが良いものを、児童が自ら考えて選べる力をつけるようにするために、宿泊行事訪問先とのオンライン交流と現地を自分の五感で確かめる活動を両立する。
2026年度実行計画	宿泊行事訪問先とのオンラインでの交流の実施
事業計画3<2025-2029年度>	ICT活用を通じた対話型学習の推進と社会科教育の実践
目的と概要	アナログとデジタルの両方を経験させ、両者の長所と短所を理解し、それぞれの長所を生かせる人材を育てる。そのために、中学年以降を対象に、主に社会科の学習を通して、ICTを活用した対話型学習を推進する。また、賜物を磨くために、高いレベルでの協働的な学習を行っていく。さらに、英語圏だけでなく、さまざまな国の言語や文化を学び、興味や関心を持ち、児童が自分の賜物を生かせるように考えることを目的として、初等部の段階では、心の柔らかい幼いうちに、世界の人々は皆、神の被造物であり、等しく尊いものであることを伝えられるようにするために、欧米の様子だけでなく、アジア圏、アフリカ圏も含めた多くの国の様子を見せ、オンライン等でも交流し、興味関心を増やしていく。
2026年度実行計画	ICT活用を通じた対話型学習の推進と社会科教育の実践
長期目標(学院目標)<10年>	Goal 2-3:創造を促す教育の実施
長期目標(個別目標)<10年>	児童それぞれの賜物を生かす教育の実践
中期計画 到達目標<前期5年>	児童それぞれの賜物を生かす教育の実践の継続
事業計画1<2025-2029年度>	礼拝(毎日の礼拝、特別礼拝)の継続
目的と概要	各々が神様から与えられている賜物に気づき、磨き、個人および集団の中で生かすことを目的として、賜物に気づき感謝する場としての礼拝(毎日の礼拝、特別礼拝)を恒久的に行う。
2026年度実行計画	礼拝(毎日の礼拝、特別礼拝)の継続
事業計画2<2025-2029年度>	1・6年生、1・2年生のパートナー制度の継続
目的と概要	各々が神様から与えられている賜物に気づき、磨き、個人および集団の中で生かすことを目的とする。賜物を生かす場として、1・6年生および1・2年生のパートナー制度を継続して行う。
2026年度実行計画	1・6年生、1・2年生のパートナー制度の継続
事業計画3<2025-2029年度>	宿泊行事「雪の学校」の継続・発展
目的と概要	各々が神様から与えられている賜物に気づき、磨き、個人および集団の中で生かすことを目的として、学年をまたいだ縦割りの生活を行っている宿泊行事「雪の学校」を継続して行う。
2026年度実行計画	宿泊行事「雪の学校」の継続・発展 第12期3年目

事業計画4<2025-2029年度>	5・6年生プロジェクト活動の継続・発展
目的と概要	各々が神様から与えられている賜物に気づき、磨き、個人および集団の中で生かすことを目的として、5・6年生が行っているプロジェクト活動の働きを継続し、さらに各設置学校に広げたり、学外に広げたりする。
2026年度実行計画	5・6年生プロジェクト活動の継続・発展
事業計画5<2025-2029年度>	学習や生活にフォローを必要とする児童のためのサポート体制の構築と拡充
目的と概要	各々が神様から与えられている賜物に気づき、磨き、個人および集団の中で生かすことを目的として、学習や生活にフォローを必要とする児童のために、サポート体制を構築、拡充する。
2026年度実行計画	・学習や生活にフォローを必要とする児童のためのサポート体制の継続 ・体制づくり、教材づくりをすすめる。
長期目標(学院目標)<10年>	Goal 2-4: 地球市民の育成
長期目標(個別目標)<10年>	世界を知り、世界の中で自分の賜物を生かせるようにする教育の実践
中期計画 到達目標<前期5年>	世界を知り、世界の中で自分の賜物を生かせるようにする教育の実践の策定
事業計画1<2025-2029年度>	海外ホームステイプログラムの継続
目的と概要	さまざまな国の言語や文化を学び、興味や関心を持ち、児童が自分の賜物を生かせるように考えることを目的とする。初等部の段階では、心の柔らかい幼いうちに、世界の人は皆、神の被造物であり、等しく尊いものであることを伝えられるようにしたい。そのために、希望する者に対して、そのフィールドを経験できるように、オーストラリア、イングランド等、海外ホームステイプログラムを継続する。
2026年度実行計画	海外ホームステイプログラムの継続
事業計画2<2025-2029年度>	フィリピン訪問プログラムの継続
目的と概要	英語圏だけでなく、さまざまな国の言語や文化を学び、興味や関心を持ち、児童が自分の賜物を生かせるように考えることを目的とする。初等部の段階では、心の柔らかい幼いうちに、世界の人は皆、神の被造物であり、等しく尊いものであることを伝えられるようにしたい。そのために、希望する者に対して、そのフィールドを経験できるように、フィリピン訪問プログラムを継続していく。また代替地の検討も行う。
2026年度実行計画	フィリピン訪問プログラムの継続(代替地検討も含む)
長期目標(学院目標)<10年>	Goal 3-1: 開かれた学びと新たな価値の創造
長期目標(個別目標)<10年>	校外の人と関わる教育の実践
中期計画 到達目標<前期5年>	校外の人と関わる教育の実践の策定
事業計画1<2025-2029年度>	社会科フィールドワークの継続
目的と概要	学院周辺ではたらく人々との交流や、専門家による特別授業、現地を実際に見る／調べる／まとめる活動を通して、青山学院が目指す人物像「サーバント・リーダー」を育成するための4つの教育要素の内、「キリスト教教育」「想像&創造教育」について学ぶ機会を作ることを継続する。
2026年度実行計画	社会科フィールドワーク、3年生社会科「学院周辺フィールドワーク」が継続して行われている。
事業計画2<2025-2029年度>	社会科「山の手空襲を学ぶ授業」の継続
目的と概要	現在のわたしたちの身近な環境で、第二次世界大戦当時に何が起きていたのかを学ぶ平和教育の一環として、講師に学院近隣周辺の方をお招きして、特別授業「山の手空襲を学ぶ授業」を毎年継続して実施する。
2026年度実行計画	社会科「山の手空襲を学ぶ授業」の実施

II-5. 幼稚園

長期目標(学院目標)<10年>	Goal 2-1:4つの教育要素の実践
長期目標(個別目標)<10年>	キリスト教保育を通じた、神と人々に仕える人間形成
中期計画 到達目標<前期5年>	保育者は、礼拝を中心とした教会生活の充実と信仰の養いを中心とした生活を送っている。クリスチャンである保育者を神様がキリスト教保育の場で用いてくださることを信じ、互いに励まし合い祈り合い、子どもに仕えることを通じて神様に仕える者として働く日々を送っている。教会学校との連携を図っている。
事業計画1<2025-2029年度>	教員自身の礼拝を中心とした教会生活の充実を基盤としたキリスト教保育の実践
目的と概要	保育者自身が日曜日の礼拝を大切に、教会の交わりの中で信仰の養いを得、献身の思いを持って保育の業にあたる。
2026年度実行計画	子どもの礼拝準備のための保育者による聖書研究会の実施(学期に1回)
長期目標(個別目標)<10年>	遊びを中心とした保育を大切にする。
中期計画 到達目標<前期5年>	子どもたちが遊びの中で自分の好きなことを見つけて繰り返し楽しみ、探求し、発見し、時に葛藤し、失敗し、試行錯誤し、達成感を得、また次への意欲を得ていく。また、遊びの中で友だちと出会い、楽しい思いを共有し、相談し、協力し合う経験を重ねている。時には思いがぶつかり合うこともあるが、保育者の助けを得ながら、互いの思いを知り、そこからどうやって折り合いをつけていこうかと道を見つけ出すことができている。このようにして、遊びを通して子どもたちの中に生きるために必要な力が養われている。
事業計画1<2025-2029年度>	保育の計画と実践の検証の構築
目的と概要	遊びを中心とした保育を通して一人ひとりの子どもの中に育てているものを確認し続ける。そのために、本園に於ける遊びを中心とした保育の計画と実践の検証を重ね、「日々の保育に関するレポート」を毎年発行し、「キリスト教教育学会」に於ける論文発表へと繋げてゆく。
2026年度実行計画	2025年度の計画の継続と保育の記録の方法の構築に努める
長期目標(学院目標)<10年>	Goal 2-3:創造を促す教育の実施
長期目標(個別目標)<10年>	豊かな保育を可能とする人的環境の保障
中期計画 到達目標<前期5年>	保育者の研修、研究の更なる充実が図られている。働きながら更に上の学位を取得するための学びを続けられる環境が整っている。働き方改革を念頭に置いて、教職員のワークライフバランスを実現するための施策が推進されている。
事業計画1<2025-2029年度>	理想的な人材の確保と、チームとしての保育者集団と良好な人間関係の形成
目的と概要	キリスト教保育を志し、保育者として優秀であり、人格的に柔和で柔軟な人材を雇用する。その上で、チーム保育が円滑に行われるよう話し合いの時間を毎日確保する。互いのワークライフバランス維持のために時間内に仕事を終えるよう互いに補い合い仕事を進めることのできる人間関係を構築していく。
2026年度実行計画	ワークライフバランスの維持のため互いに仕事を補い合う関係の構築
長期目標(個別目標)<10年>	新園舎の環境を生かした保育の構築
中期計画 到達目標<前期5年>	新園舎・新園庭を生かした保育の計画を検討し立案の後、実践している。
事業計画1<2025-2029年度>	新園舎の環境を生かした日々の保育の計画と実践
目的と概要	新園舎における保育の計画を丁寧に練り、実践する。チームでの振り返りの時間を日々十分に確保する。
2026年度実行計画	新園舎・新園庭における保育の充実のための課題解決に向けた検討、「日々の保育に関するレポート～新園舎の保育①～」の発行

長期目標(学院目標)<10年>	Goal 2-4:地球市民の育成
長期目標(個別目標)<10年>	全ての命に敬意を持ち、グローバルな価値観の中で生きる。
中期計画 到達目標<前期5年>	MCL(ミンダナオ子ども図書館)、CFJ(チャイルド・ファンド・ジャパン)の物理的な支援を続けている。特にMCLとはオンラインでの交流を継続している。そして相手方を一人ひとりの人として理解し、その国(地域)の環境をより良く知り、日本(自分たち)にない豊かさに気づき、互いを大切な命として覚え、交流を続けている。
事業計画1<2025-2029年度>	子どもたちが日々の祈りや礼拝を通して、全ての命が神さまによって造られていること、全ての命と尊厳が大切にされるべきであることを知ることをねらいとした保育の計画と実施
目的と概要	何よりも礼拝を中心とした保育を継続してゆく。また、CFJ(チャイルド・ファンド・ジャパン)とMCL(ミンダナオ子ども図書館)との交流を通して、遠く離れた国の隣人の命と尊厳を大切に思う保育を実践する。
2026年度実行計画	CFJ(チャイルド・ファンド・ジャパン)・MCL(ミンダナオ子ども図書館)の活動を知るための保育の計画と実施
長期目標(個別目標)<10年>	環境問題に意識を向け、自分たちに出来ることを考える。子どもたちが環境問題に年齢なりに取り組んでいく。
中期計画 到達目標<前期5年>	保育のカリキュラムを見直し、子どもたちが絵本や保育者の話を通して、環境問題における課題を知る経験を積み重ねている。残飯を出さない、コンポストを利用する、廃棄されるものの再利用の方法を幼児なりに探るなど、これまで続けてきたことを継続している。
事業計画1<2025-2029年度>	子どもたちが意欲を持って環境問題に取り組もうとすることを目的とした保育の計画と実施
目的と概要	コンポストの利用やスターバックスコーヒーの豆粕の再利用等の活動を今後も継続しつつ、子どもたちが環境問題を自分ごととして考えることを目指した保育を計画し実践する。
2026年度実行計画	環境問題に関する絵本の購入と2025年度からの活動の継続

II-6. 各種委員会等

【オール青山共創推進委員会・追分寮建替計画委員会】

長期目標(学院目標)<10年>	Goal 1-1:4つの教育要素の共有、Goal 1-2:系属校との共有
長期目標(個別目標)<10年>	学院一貫教育のありたい姿(Goal1)を実現するための、設置学校が連携した取組の実施と学内、学外への周知・広報
中期計画 到達目標<前期5年>	<p>【オール青山共創推進委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各設置学校が連携した新たな活動や取組を、少なくとも2つの教育要素について実施する 4つの教育要素を中心とした青山学院の教育の特長と、実施できた取組内容について、学内、学外への周知・広報を行う <p>【追分寮建替計画委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> 4つの教育要素に資する学院所管の校外施設として、追分寮の建て替えを行い運用を開始する
事業計画1<2025-2029年度>	設置学校が連携した取組の実施と学内・学外への周知・広報
目的と概要	「AOYAMA VISION 160」に掲げる「学院一貫教育」のありたい姿(Goal1)を実現するために、サーバント・リーダー育成のための4つの教育要素「キリスト教教育」「国際教育」「先端科学教育」「想像&創造教育」を中心とした、各設置学校が連携した活動や取組を計画し実行する。本事業計画では、少なくとも2つの教育要素について実施する。また、4つの教育要素を中心とした青山学院の教育の特長と、実施できた取組内容について、学内・学外への周知・広報を行う。更に、青山学院全体で展開される4つの教育要素によって育まれる力の可視化についても検討する。
2026年度実行計画	<ul style="list-style-type: none"> 2025年度に計画した1つの教育要素の新たな取組を試行する 試行した取組について学内・学外への周知・広報を行う
事業計画2<2025-2029年度>	未来共創センターの設置と4つの教育要素を中心とした連携支援
目的と概要	①4つの教育要素の取組が設置学校間で連携して行われることと、さらに②それが青山学院の教育の特長として学内に浸透し、学外にも認知されることを目的とする。設置学校間の連携を生み出すために、フューチャーセッションの企画・運営と連携支援を恒常的に展開し、多くの教職員に認知・参画してもらうために、その成果も含めた広報を行う。
2026年度実行計画	<ul style="list-style-type: none"> 設置学校間連携に関わる3件程度のテーマについて、フューチャーセッションの企画・運営、事業立ち上げ支援まで一連のプロセスを実行する 学外を含んだ、共創を促進するための自主企画セッションを6件程度実施する 未来共創センターの広報を行う(2025年度の成果を含む) 未来共創センターの部屋(間島記念館3階)の空間を整え、共創空間の運営を行う 共創のための学習支援事業を開始する
事業計画3<2025-2029年度>	追分寮の建替え及び運用についての検討
目的と概要	4つの教育要素を育む取組に大いに資する校外施設として、多くの人たちに追分寮を有効活用してもらうために、施設の在り方と建替え計画について検討し、さらに建替え後の運用方法や新規利用者の開拓・広報について検討する。
2026年度実行計画	<p>(設計・解体フェーズ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 追分寮建替えの基本設計・実施設計・工事見積を行う。旧本館等の解体工事を実施し、新築工事に着手する。 運用体制・管理体制・広報体制についての検討を開始する。

【未来構想基盤整備委員会 ・ 新7号館・新記念館建築委員会】

長期目標(学院目標)<10年>	Base 1:環境基盤
長期目標(個別目標)<10年>	青山学院が今後も社会から求められる学校であるための、多様な在校生の受入れや適正な学校規模に関する方向性の検討・決定と周知
中期計画 到達目標<前期5年>	青山学院が今後も社会から求められる学校であるための、多様な学生・生徒等の受入れを視野に入れた、適正な学校規模に関する方向性の検討と決定
事業計画1<2025-2027年度>	適正な学校規模に関する方向性の検討と決定・周知
目的と概要	青山学院が今後も社会から求められ続けるためには、日本における少子高齢化や世界の人口増加等に鑑み、多様な正規生の受入れを視野に入れ、どのような規模の学校を目指すのか方向性を定める必要がある。設置学校と法人による協働の検討体制を構築し、検討材料となる予測シミュレーション等の調査・分析を行い、適正な学校規模の方向性を協議・決定し、教職員に周知する。
2026年度実行計画	設置学校と法人による協働体制のもと、情報の収集、調査・分析を行い、適正な学校規模の方向性を検討する。
長期目標(個別目標)<10年>	教育研究環境の整備に資するキャンパス再開発計画
中期計画 到達目標<前期5年>	【未来構想基盤整備委員会】 AOYAMA VISION160の期間前半に整備を必要とするキャンパス再開発計画を成案とする 【新7号館・新記念館建築委員会】 新7号館の設計を完了し、新築工事に着手する。新記念館の設計を完了し、新築工事の施工業者を選定する
事業計画1<2025-2026年度>	キャンパス再開発に関する情報収集と方向性の検討、及びそれらを踏まえた計画の立案
目的と概要	AOYAMA MIRAI VISIONを実現する将来の教育研究環境を整えるため、建物の取得、除却に関する検討、及び合理的な施設・設備の配置について検討する。具体的には、教育・研究や学生生活、社会連携、学校運営等の側面から意思決定に必要な情報を収集し、現状の課題を分析し、キャンパス再開発の方向性を検討して、それらを踏まえた構想を立案する。
2026年度実行計画	・計画実行に必要な委員会等の設置 ・大学の将来構想を踏まえたキャンパス再開発計画の調整
事業計画2<2026-2029年度>	新7号館の建築
目的と概要	教育研究環境を整える施策のひとつとして、新7号館を建築する。教育・研究や学生生活、社会連携、学校運営等の側面から必要となる施設や機能について検討し、新7号館の設計・施工を行う。
2026年度実行計画	・計画実行に必要なプロジェクト等の設置 ・設計業者の選定及び基本計画の作成 ・大学の将来構想を踏まえた建築計画の調整
事業計画3<2026-2029年度>	新記念館の設計
目的と概要	教育研究環境を整える施策のひとつとして、新記念館を建築する。教育・研究や学生生活、社会連携、学校運営等の側面から必要となる施設と機能について検討し、新記念館の設計を行う。
2026年度実行計画	・計画実行に必要なプロジェクト等の設置 ・プロジェクトによる基本計画に向けた検討 ・大学の将来構想を踏まえた検討
長期目標(学院目標)<10年>	Base 2:組織基盤
長期目標(個別目標)<10年>	教学-経営間の適切な意思決定・ガバナンス体制の確立
中期計画 到達目標<前期5年>	教学-経営間の適切な意思決定・ガバナンス体制の合意と可視化
事業計画1<2025-2026年度>	教学-経営間の適切な意思決定・ガバナンス体制の確立に向けた検討・協議
目的と概要	私立学校法改正(2025年施行)を踏まえ、設置学校と法人が協働して、教学-経営間の適切な意思決定の仕組みやガバナンス体制について検討・協議する。
2026年度実行計画	教学-経営間の適切な意思決定・ガバナンス体制を確立する。

【人事部】

長期目標(学院目標)<10年>	Base 2:組織基盤
長期目標(個別目標)<10年>	各設置学校における教職協働体制の構築を担える職員の人材配置及び育成
中期計画 到達目標<前期5年>	各設置学校における取組み目標の現状を把握し、人事部の目標達成に向けた具体的な取組みとの関連について、その内容や方向性の確認を毎年行い、必要により、随時取組み内容の再検討等や方向修正を行いながら、各設置学校の10年後の目標達成に向けた取組みに沿った事務組織の支援体制を構築していく。
事業計画1<2025-2029年度>	各設置学校の目標達成に向けた効果的な職員の採用・配置と、職員のスキルアップに必要な研修環境の提供及び各種研修の実施
目的と概要	各設置学校の目標と現状を把握し、人事部の目標達成に向けた取組みとの関連について、内容・方向性を毎年確認しながら、各設置学校の10年後の目標達成に向けた事務組織の支援体制を構築していく。
2026年度実行計画	人事部の目標達成に向けた具体的な取組みとの関連について、その内容や方向性を確認する。
長期目標(個別目標)<10年>	今後10年間で人事部が取組むサーバント・リーダー輩出に資する人事政策の実行
中期計画 到達目標<前期5年>	管理職をはじめとする各年代層に向け育成のための研修機会を提供する。現在の人材育成を主眼とする人事制度の課題について優先順位をつけ、必要な改革を行っていく。また、人事政策として業務の多様化や専門化に応じた人材配置を行うとともに、現状、業務の外部委託が可能な業務について外出しの可能性も含めて検討していく。
事業計画1<2025-2029年度>	より人材育成に重点を置いた人事考課制度確立に向けた現行制度の運用全般にわたる見直し
目的と概要	職員の各年代層に向け育成のための研修機会を提供する。人材育成を主眼とする人事制度の課題について優先順位をつけ、必要な改革を行っていく。人事政策として業務の多様化や専門化に応じた人材配置を行うとともに、現状、業務の外部委託が可能な業務について外出しの可能性も含めて検討していく。
2026年度実行計画	人事制度の課題について優先順位をつけ、必要な改革を行っていく。

学校法人青山学院 長期目標・中期計画 2026年度事業計画
2026年3月27日 理事会承認（2026年4月発行）

学校法人 青山学院 〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25
〈問い合わせ先〉総合企画部 Tel.03-3409-6384
〈学院ウェブサイト〉<https://www.aoyamagakuin.jp/>

